

自己評価総括書

令和 6 年 9 月 3 日
尾道市立久保小学校

1 ミッション

小中一貫教育開校に向けて
小中連携教育を通じた主体的・協働性を育む教育の推進

2 ビジョン

- 「自ら学ぶ子」「ともに学ぶ子」を育てる学校
- 通ってよかった・通わせてよかったと実感できる安心・安全な学校
- 児童が憧れる頼れる教職員を育成する学校

3 重点課題における成果と課題

①確かな学力の育成

「基礎学力の定着」「個に応じた指導の充実」

【成果】e ライブラリの活用、朝のトレーニングタイムでのモジュールの実施により、算数科での基礎的な学力は一定程度身に付いてきている。

【課題】主体性に関するアンケートの結果を分析すると、「あきらめずにいろいろな方法を考える」「相手の話や意見を最後まで聞く」項目の数値は高かったが、「算数の学習に自信がある」の項目の数値が1年と4年以外は80%に達していなかった。ほめどころへの的確なほめの手立てを講じることと、相手に伝えたい・分かりたいと思うような対話を仕組む授業改善を一層図る必要がある。

②豊かな心と体の育成

「伝統文化と地域の文化を取り入れ、かかわりを大切にする教育活動の推進」

【成果】教師が意識的に伝統文化・地域教材を取り入れた授業を実践することによって、地域の良さをとらえる児童が増えてきた。

【課題】学んだ久保地域の良さを自覚的に語れる児童や、記述内容に肯定的な変容が見られる児童はまだ少ない。

③豊かな心と体の育成

「小中連携を活かした取組の推進」

【成果】児童会・生徒会を中心としたあいさつ運動に参加したり、レクリエーションを通して仲を深めたりすることができ、あいさつを広げていくことにつなげることができた。

【課題】児童の行動がイベントによるものではなく本物になるように小中連携による指導の工夫を進める必要がある。

④豊かな心と体の育成

「自己の体力を伸ばす子供の育成」

【成果】パワーアップトレーニングについて授業前に毎回行うことで、児童自ら課題を設定し、自主的かつ意欲的に活動できるようになり、児童のトレーニングに対する意識の高まりを感じることができた。

基本的な生活習慣を身に付けさせるために、元気週間アンケートを実施し、保護者へのメール周知や、学級懇談会で担任からの説明を行ったことにより、約半数の児童（もしくは家庭）は意識して取り組むことができた。

【課題】改善が見られなかった児童や家庭が約半数いることは課題である。基本的な生活習慣への意識」を高めるために、さらなる取組を検討していく必要がある。

4 今後の取組の方向、改善策等

①確かな学力の育成

○引き続き、e ライブラリ・朝のトレーニングタイム・グッバイタイムに全校で取り組み、基礎学力が定着するように繰り返し行う。また、より効果的に取り組めるように、校内研修等で活用法や実践法を周知・交流していく。

○算数の学習に自信がもてる児童を増やすために、校内研究授業を通じて「ほめどころ」に対する「ほめの手立て」が、児童の自信につながるものであるか、児童の姿をよく見取って協議していく。また、日常的にしっかりほめる（認める・肯定する）ことの徹底を再度図り、児童が安心して発言できる学級づくりを行う。算数科を中心に相手意識や目的を明確にもてる「対話」を単元を通じて仕組み、学びが広がる・深まることを意識した授業改善を図る。

②豊かな心と体の育成

○継続して久保地区の地域教材・人材を活用した授業を生活科・総合的な学習の時間を中心に展開していく。その中で、ふり返りをはじめとして、「書く」活動を積極的に取り入れ、学んだことを自分なりに解釈し記述する機会を確保する。そうすることで、久保地区の良さを自信をもって語れる児童を育てる。

○パワーアップトレーニング

- ・11月中旬に行う2回目の新体力テストの測定まで、パワーアップトレーニングを行う。
- ・体育安全委員会による大休憩の計測も引き続き行う。
- ・パワーアップシートには、昨年度12月と今年度5月に計測した記録を載せたり、目標記録を載せたりすることで、児童の意欲向上を語る。目標記録を達成できた児童は3学期に表彰する。

○生活習慣

- ・引き続き、元気週間カードの取組を行う。9月実施に際して、学級懇談会で1学期のデータをもとに本校の取組状況を伝える。以後、元気週間アンケート開始時には、保護者へ便りを出して意識して取り組んでいただけるようにする。
- ・元気週間でがんばった児童（4月と6月を比較して○が増えた児童及び最大値15個を維持した児童）を掲示で紹介する。
- ・元気週間で、全ての回（計5回）で満点だった児童を「元気週間マスター」として表彰する。